

傾城賞本乃筆

ヤ



89
 13行
 2132
 89

三

奇蹟書聖大草手巻

三
 聖
 大
 草
 手
 巻

おんかゝるいんげんてなかにあつた
 おほいしげんもあつたてなかにあつた
 ぞんあつたはあつたあつたあつた
 はあつたあつたあつたあつたあつた
 ちはあつたあつたあつたあつたあつた
 いんあつたあつたあつたあつたあつた

をくしとよおせし。かゝる物とらみも
勸懲の如くするし。おぼくしるくおぼ
からし。いしをまぐぬ。かゝるし。
よ。おぼくし。いし。今。あ。し。
弱か。し。し。し。の昔か。ま。あ。し。
あ。みの。し。し。し。は。し。
せ。し。物。せ。し。し。あ。の。れ。が。あ。の。

し。し。お。し。し。物。の。し。唐。強。并。用
源。詔。掃。も。し。し。か。し。し。あ。み。し。月。子
だ。し。し。あ。の。し。し。し。あ。し。あ。し。
あ。し。し。し。し。し。あ。の。し。物。し。し。
あ。し。し。あ。の。し。し。し。し。し。し。し。
あ。し。し。あ。の。し。し。し。し。し。し。し。
あ。し。し。あ。の。し。し。し。し。し。し。し。
あ。し。し。あ。の。し。し。し。し。し。し。し。

新編江のなまよかはしてはくくのえん
ぐしんまよふたしんまよふたしんまよふた
けしめぬ色あらしのたんごう
のしめがしんまよ

狂柳子文麈志

目録

第一
五り年とせ昔むかし長なが雅みや千ち藤ふじが
自こゝろ心こゝろをを感かん心こゝろをを事こと

第二
長なが雅みやが父ちち金かね子こ二ふた包つつみをを贈おくりて
千ち藤ふじが嫁よめいり入いりをを事こと

第三

吟^お麻^ま手^ち智^ち永^{なが}身^みを^を悔^{こひ}て^て嘆^{なげま}入^ま乃^{なり}
澗^{よち}子^こ沉^{しづ}む^む事^{こと}

第四

長^{なが}雅^{まさ}唯^{ただ}唯^{ただ}雄^{ゆう}の^の壻^{むすこ}を^を見^みて^て忍^{しの}心^{こころ}を^を
翻^{ひるが}し^し鳴^なれ^れさ^さる^る事^{こと}

已上

番^{ばん}頭^{とう}

五^ご市^{いち}



遊い君く
千ち龍たき



金こが商めま

長なが雅まさ



手代てたい
加三かみ



奇談書きだん 野矢のや 華はな

第一

五年の昔いつとせ 昔むかし 諾がたり 子こ 長雅ちやうが 千ち 腐ふ け
貞心ていしん を感かん づる話はなし

頃ころ 彌生やよい のあづきざらうらうらううらうら 植うゑ ころ花はな をアんとて
 きてき人ひと ニ三人さんにん 子こ じごふとまき夕陽せきやう 笑わら 笑わら 合あ 子こ ちくまこひ
 ころりほりりたる今いま をささりの花はな の々な 街まち の贈たま り
 ありさぬ感かん づるも不ふ むらも妬ねた りありとて家あ 子こ いま
 たむげたむげ 子こ 盃さうまい をのぞむらうらううらうら 子こ 木き 蔭かげ をあま

あまのこゝと行ゆきふ羽はね代しろ紅こう顔がんの雅みやびをひを余あまに
のこ目めしてさきあ人も本ほんまきあまきつごらあまきバあづ
まくもかりゆくとあつ栞しりくはぐりて又また盃さかづき殺ころ巡めぐり
あびあひききうらひてたさきあまびつ時とき刻くわも
移うつれどさあしまどちほんいざせせぬとこあめく
聞きくしりわり時ときち夜よもいづく更よけく物もの志しづらあま
後あとのざきふていし志しあやう子こ咄はなしのし名なかぶをぬれ
てゆまちいろあつ色いろ好このその睦むつ言まことあくと物もの乃なりさま

らりそとさししのぞく子こ賦ふくくるる残ざん燭しやく壁かべ子こ宵よ中ちゆう
て唐たうりたる女にも男をとこもささきて見みえさきだいらよ
あやしく思おもひよしく見みるまよも思おもひがけるやさう
いふあまの思おもひのありし長ちゆう雅がし千ち瀬せとあり耳みみを
ささけしゆゆがしし「ま戯げ」おなをきるやみくふ信つてでまわ
ぬんまめでお出いであんなまといし事ことちうけらあまら
ておりのいしぐあはれ二ふた修しゆでお目めよかからよとら
塔たうの内うちさなでも市いちもさうおなんなまあくこアあどす



あらひと
隣客
ひそく
ちか
ちか
ちか
おぼろ



丸が坊まのい〜うよくお出さん〜うそ坊け
さ〜うよ「雅」どより丸が坊のうう〜あも
志まわんあんぶうたまき子酔〜わうて居〜れバ
〜んふグやあまこやま〜う〜う〜う〜う
あ〜でちよ〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う
子よ「雅」いふおと〜あ〜さんあ〜う〜う〜う〜う
ま〜んでお出さん〜う〜う〜う〜う〜う〜う
が〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う

そきてるの後ろにけりておさんま〜う「雅」ア
そふりよあさ〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う
あよての委細のやう〜う〜う〜う〜う〜う〜う
おま〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う
何〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う
投出〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う
その時あまのた〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う
あ〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う〜う

天^{てん}人^{じん}を^を報^{こう}さん^でし^のめ^のや^うを^を伴^{ばん}頭^{とう}
 ぶ^ぶども^{ども}夢^むを^をけ^けこ^こう^うな^なら^らな^など^どが^がま^まて^てら^らせ^せる^る
 事^{こと}して^{して}ア^アら^らし^しり^りつ^つま^まり^りや^やこ^こか^から^らも^も何^{なん}と^とも^もい^いは^はぬ^ぬ
 だ^だま^まん^んご^ご仕^しは^はつ^つこ^こそ^それ^れう^うと^とい^いふ^ふ物^{もの}を^を切^きつ^つく
 り^りん^ん城^{せい}を^を買^かい^いま^ます^すと^とあ^あら^らう^うく^く本^{ほん}の^のつ^つき^きを^を
 だ^だめ^めん^んり^りま^ます^すは^は里^{さと}へ^へ来^きて^て見^みて^てあ^あが^がら^らう^うで^でも^もあ^あん
 ち^ちの^のと^とら^らあ^あん^んと^とり^りあ^あの^のを^をま^まて^て面^{おも}を^をろ^ろく^くも^もあ^あん
 と^とも^もあ^あの^のさ^さく^くも^もあ^あの^のま^まの^のま^まを^をげ^げく^くで^でら^らう
 ち^ちら^らう^うま^まて^てま^まる^るか^から^ら花^{はな}を^を見^みて^てま^まり^りて^てま^まら^らう^う
 思^{おも}う^うこ^この^のあ^あん^んら^らう^う舞^まの^のま^まを^をわ^わら^らぶ^ぶど^ども^もあ^あん^んか
 ま^まま^まめ^めら^らう^うて^ては^はい^いあ^あく^くら^らう^うて^てま^まり^りて^てま^まら^らう^う
 舞^まの^のあ^あん^んら^らう^う見^みて^てあ^あひ^ひよ^よで^でも^もま^まり^りて^て思^{おも}う
 て^てら^らん^んか^かさ^さん^ん ま^まの^のま^まの^のま^ま 舞^まの^のま^ま 舞^まの^のま^ま
 の^のま^まを^をま^まり^りて^てあ^あひ^ひよ^よを^を出^でる^るま^まあ^あひ^ひよ^よで^でも^も
 ち^ちら^らう^う何^{なん}と^とも^もあ^あひ^ひよ^よの^のま^まを^をあ^あひ^ひよ^よで^でも^も
 よ^よと^と花^{はな}を^をえ^えて^てあ^あの^のま^まの^の下^{した}を^をま^まり^りて^てあ^あの^のま^まに^に

おどめのふアゆ^{しな}今かんぐてスるまひとまきう
の^まふて^まで今ぶら内ではなぐうてわて
只なせくかのゆの^まある木らゆ^まご^まよかん^ま
さぬ^まアガ^か居^かれちあ^まう^また^まと^まあ^まが^まあ^ま
とら^まう^まガ^ま女^ま骨^ま内^まで^まわ^まど^まの^ま道^まま^まれ^まゆ^ま
あ^まの^まあ^まで^まかん^ま高^まで^まは^まれ^まあ^まん^まご^また^まけ^ま
あ^まく^まら^まあ^まく^まア^ま行^まよ^まさ^ま ^麻あ^まん^まま^まう^まめ^ま
ら^まら^まゆ^まの^まく^まり^まま^まら^まて^まお^ま出^まあ^まん^まは^まね^まあ^まの^まま^ま

ち^まら^まら^ま略^まさ^まら^まて^まお^まん^まあ^まん^まし^まて^まも^まよ^まさ^ま
ゆ^まで^まお^まん^まし^まら^まい^まま^まを^まひ^まど^まわ^まお^まん^ませ^まあ^ま
ぶ^まく^ま ^雅ご^まぐ^まう^まわ^まら^まあ^まご^まわ^まが^まま^まま^まか^ま
けん^まご^まは^まあ^まら^まて^まわ^まら^まだ^まら^まの^また^まら^まけ^ま甘^まみ^まが^ま
ゆ^まん^まが^まあ^まく^まら^まア^まわ^まら^まお^まし^まけ^まお^まう^まま^まん^まし^まら^ま
市^ま街^まま^まま^まま^まら^まら^まま^まあ^まら^まご^まの^ま ^麻よ^まの^まや^まと^ま思^まつ
て^まお^まら^まま^まご^まら^まく^ま見^まい^ません^まま^まら^ま本^まと^まよ^まあ^ま
志^まん^まち^まあ^まら^まの^ません ^雅加^まか^まら^まら^まむ^まお^まく^まま^ま

やまうり「儼」 その傍のちをたすて「報出」しむいしん
ちん「雅」 そのつ又なせご「儼」 向わりのせんやま
ほふをまう「うい」ておきん「雅」どよりよすが
あゝぬめでおざんまそまぶか「儼」 今おあさん
のちうせしこやま子あういしてきどよもあ
せん「雅」 たぐいよ志んぼ「儼」をこやつて
ねんのあ「雅」のを待「まう」のころありや「儼」 みるいす
おたのみ「儼」はらの「儼」 さらしておらん争ひて
たのみどやあざういやんがま「儼」が私「私」をばあ
あゝいぶけより「儼」 弁「か」のころまらし「儼」 事「し」での
づらうまらひしよあまをど人乃らうさ
しがや「儼」を客「ま」人「で」の出「で」てもどまがら「儼」
ぞんどのせだ「つせ」心「つせ」ま「つせ」あ「つせ」な「つせ」は「つせ」け「つせ」が「つせ」し「つせ」ま「つせ」ハ「つせ」お
ざんせん「つせ」よ「つせ」た「つせ」た「つせ」の「つせ」人「つせ」ち「つせ」な「つせ」が「つせ」う「つせ」ち「つせ」よ「つせ」ま「つせ」ま「つせ」く「つせ」な
い「つせ」づ「つせ」を「つせ」お「つせ」ら「つせ」し「つせ」て「つせ」お「つせ」な「つせ」つ「つせ」ら「つせ」あ「つせ」は

さんまをそれもしよひもろくくひまめがどよよと
 たちぐくでも出^{でき}まてちとそれ^くが苦らく下ありい
 せん^雅いづきたしうな伊くつがあふね^雅
 はぶあわうちつとこけがおざんしてせきめく
 おらんちんまかこがおざんまがその方^かかろの^く性を
 性^{せう}扱をあらつてやんこ^雅それぢやア^ど大夫^ぶまんと
 だんくの性をまろ子あやどおめくといふのとき
 感^{かん}をふりのざぞ^まん^{らい}と^{せい}世^ち子^え知^ちあ^えが^{あり}
 ままてまめあぬうで^いま^雅ら^けた^ぬらん
 せぼとを^い事^とおの^あん^せう^がおめ^きさん^お
 かまさんくはぶ^かち^あん^まを^めね^雅い^のが
 あるかろせうでもまよ^しり^の事^らそ^うや^ア
 おろくけくが内^あい^ぶん^ちめ^まき^あつ^てあ^かろ
 そんちたの^いみ^ちあ^まさ^雅い^とこ^かろ^まめ^つて
 お出^しらん^まこ^雅察^るる^内く^ろ^雅ま^てり^つお
 よびあんまこ^雅来^らい^なら^ごら^雅来^らい^なら^ごら^雅ら^いな^らご^らを

おしあんなまのぶおざんせん久 雅 おも白くも

おの依みんのふみ子うそをほくめう 麻 志ん志う

ちぐしちおざんかん久 雅 おも白くもねく むみ 坐

とがしりそめぶあんどなねろしく 麻 志ん志う

はくろせ 千歳 ちたまのおう 麻 志ん志う 神 をわくおあ

らトあまおは長雅ハひつう 雅 志ん志う 麻 志ん志う

がおあつしう 麻 りく 雅 あんぞ腰まのうらまて

おあひ出しこの 麻 りく 雅 あんぞな人が

まくと 麻 志ん志う 雅 あんぞな人が

ゆえ ま 志ん志う 麻 志ん志う 雅 あんぞな人が

ねんのあくの おけ 志ん志う ま 志ん志う 麻 志ん志う

今の いま 志ん志う 麻 志ん志う 雅 あんぞな人が

私 わ 志ん志う 麻 志ん志う 雅 あんぞな人が

ト 志ん志う 麻 志ん志う 雅 あんぞな人が

ト 志ん志う 麻 志ん志う 雅 あんぞな人が

ト 志ん志う 麻 志ん志う 雅 あんぞな人が

ト 志ん志う 麻 志ん志う 雅 あんぞな人が

ト 志ん志う 麻 志ん志う 雅 あんぞな人が

ト 志ん志う 麻 志ん志う 雅 あんぞな人が

やういふざうりうでさあさうりうあんなはあかへいアか
でおざんはてやうてあんなあやあかさんも四五
年か坊でもけ里へ入ひさうさお出さるんて
誰いがのい事こともアの事ことあか親おやもけ坊ごいけん見
もさう坊うせく風ふう子こアアあんなてさうもふさぐ
くんのアアをアアてむさくやとあさう坊ゆちが
アアのあんのて二日も三日もあがさうんはて
あかへいおかへいアアてさうあかへいあかへい

あまていらもアアの虫むしがはらておるゆゑと
かいつくあさうみもさうけらさうさうてあざんを
とらさう志しあさうもあかへいさうそのさうし
あさうけあさうあさうあさうあさうあさうあ
ざんさうさうざんさうがかんあんの親おや坊ごさんて
その坊やうをアアもあさうあさうあさうあさうあ
坊やうさうアアさうあさうあさうあさうあさうあ
あさうあさうあさうあさうあさうあさうあさうあ
あさうあさうあさうあさうあさうあさうあさうあ

おあぐさんの内の立市いちさんとやうがお出るん
してヤギ暮くらうぢぢら子こあつたもめらおあぐさん
とち何なにうかさい物ものさくのまてある事ことが有る
そよぶらうりさくき酒しより子こまてくうくあつたも
かう笑わらつてありさい物ものどあんはりあぢあ子
お尋もとめんまかろうそれちまをてい事ことであぢんま
とヤイいんまだごそれあうだうそよまあまいいや
いらていんまてあつたもめかろうそよもめらめ

指さし子こ不ふ吉きちる事ことをさうし事ことちさでいおぢんま
中ちゆういまい物ものだて今いまのこけをいさうくお性せいらんて
弥や島しまどうの身みあるのさういあうめいや
お月つき子こかろうくなもかへい物ものあひいんま
そん物ものあひそれさうく今いまのまま子こたらし
言ことひひまはまれだご足あしをひまいるんまそよま
あれぢいおんのあく時ときを命いのちトと子こけくてもまを
まらかうとあつたもい物ものど糸いとの事ことあうぶ

どの振ヤリるまでにもハイセセでござるわだこころし
 由よりておらんらんしハイセセわだお
 せひもねく事ことござるしハイセセ御おん事ことされらん
 付つけ弟せうの事ことのておらんしおとねいとみきらん
 まさかろ私わがのハイセセらんみも長なが雅みやびらんを
 かん弟せうの身み子こ志こころいりてきおざんせん
 たとくまおでらんらんわるともちちらんあで
 あいそがはきとらんしおとねいとみきらんしおとねいと

どの振ヤリるまでにもハイセセでござるわだこころし
 由よりておらんらんしハイセセわだお
 せひもねく事ことござるしハイセセ御おん事ことされらん
 付つけ弟せうの事ことのておらんしおとねいとみきらん
 まさかろ私わがのハイセセらんみも長なが雅みやびらんを
 かん弟せうの身み子こ志こころいりてきおざんせん
 たとくまおでらんらんわるともちちらんあで
 あいそがはきとらんしおとねいとみきらんしおとねいと

「勝」どまの人うぞんぶんしあんぶ 「雅」年乃

あくのなをたのむと「よみ」育くくのなをま

「勝」みんなおめくさんの「こし」ちで「おざん」を「雅」扱ハ

そふいよ「あつ」く「か」う「ゆ」 「劇」行

「どん」を「わ」あて「ま」げ「つ」け「あ」ん「し」み「す」あ「で」

「ちや」茶をの「ま」い「あ」も「あ」ま「い」で「ま」は「し」

「お」ま「ん」 「雅」何く「何」も「で」ま「ん」ぶ「ら」

「きん」の「あ」ま「い」の「あ」ま「い」

「ど」思「ま」く「さ」を「お」か「し」け「な」い 「勝」むく

「あ」ざ「ん」さ「て」人「を」お「の」も「や」う「だ」り「あ」を

「あ」ま「い」の「あ」ま「い」を「か」る「あ」ま「い」

「あ」ん「し」 「雅」そ「ま」い「あ」い「づ」き「思」案「も」あ「ま」い

「何」も「し」て「も」か「ア」の「お」後「ア」何「う」の「事」を「だ」ん「は」り

「で」ま「い」わ「ら」五「市」が「胸」が「て」ん「ぶ」白「く」わ「く」 「勝」

「あ」ま「い」お「た」ま「し」「あ」ん「ま」い「ま」い「ま」い「あ」り「い」せん

「あ」ま「い」 「雅」親「の」家「智」を「序」あ「く

「あ」ま「い」 「親」の「家」智「を」序「あ」く



おぼしき曲を弾じて居るをうか
表の筋より年丹の五十をうりかき物
むづろげ子婦よりさき
胃のりりあるみぞ 琴ひきやあておくろ
一回へ逃りりて 籠子をかぶ
下さるゆせ〜長雅ぐか〜る密りあ
地ト 夢をりお所を飛んで出 ちや長
雅さんの筋か〜で おぼしきはとりサア

おぼろいおさいま〜 尻がめろるを
どろさんぐ〜ま〜ま〜子 寝〜わや〜
そりやア 若者か〜ておぼしきま〜
そ〜ておぼしきま〜ん〜おぼしき
もおぼしきゆせ〜 尻さん 口 橋 何かも
おぼしき〜おぼしきのま〜 尻
もおぼしきゆせんが ちろもさろそ〜る

地ト 姑とあろうとやと金子きんま二包ふたつかなり

「あ ありやア 何なんまうり 少すくむうり でお尋きの毒どく

ぶが 隠ひん居まぐ おげやまて 志し居まつて あまあななささ

「ま 何なんももとといいつつととああららややア 何なんををででおおぎぎりりははままて

「ま 何なんももとといいつつととああららややのの毒どくででももああららささ

「ま 何なんももとといいつつととああららややのの毒どくででももああららささ

「ま 何なんももとといいつつととああららややのの毒どくででももああららささ

「ま 何なんももとといいつつととああららややのの毒どくででももああららささ

「ま 何なんももとといいつつととああららややのの毒どくででももああららささ

「ま 何なんももとといいつつととああららややのの毒どくででももああららささ

「ま 何なんももとといいつつととああららややのの毒どくででももああららささ

「ま 何なんももとといいつつととああららややのの毒どくででももああららささ

「ま 何なんももとといいつつととああららややのの毒どくででももああららささ

「ま 何なんももとといいつつととああららややのの毒どくででももああららささ

「ま 何なんももとといいつつととああららややのの毒どくででももああららささ

「ま 何なんももとといいつつととああららややのの毒どくででももああららささ

だけとあつまゆるのでおざうりあまうみ市
さんへあまをどかへんやうとく又を上り
まうと
るるをいへる書付もゆつとありあまて今
さうそふるあります
「あま書付ハあろく
起せしほごまさるるけん城のあろし
あまも人いざいそふとらふそりあ
ありあまてあまのろくわくろく
かろくあちろくろく一不願くせしめ
まぢ

あまてあまろくろく
「まぢ
まぢあま又市え
が私を女してあまどりたまぢあまろくのろく
であろく地トあまのあまろく
「あま何もそんま子あまアろくあまをわくこ
二はみ持ろけであまをよろどり
らあらまぜあまもはあまろくあまを
はろくのあまろくのたろくろくあま
あまろくあまろくあまろく
あまろくあまろくあまろく

おのれどもせめてら死ぬるとむくりを人
ばてあうでりよよもと思ひまづむぞ
いぢうしき母もふとてよかまじうて
らやうらふかあうらふさうなうら
のるなまじく長雅さんまじあみ市さん
がこのカ子もあよだぬきめつともけ世で
のやくそくようかうならよこのよあ
れやうそくそくがかいらるやとあまうめて

トされゆも種なまアヤうけんでも
出マうとそれむうらうが若者ども
おまんがその根子若らうまうてらぶ
さらのぐまうてあいのよううもかまうて
あうあめんわうちゆよあまうめて
あま子平年でいまけうゆふえん事を
のうそトさいまなをあもまうてつて
あまぞとトむいふをあて候をか

心こころをねおのひやしてあれありるれ
よまちのお町のをまるらくともころを
むらう子て夜る志をぐとなまきあらく
ひらくさあらぬ躰あれども母あどの見
お胸をかぶ子むまてるなまきをおぼく
まのびかねらる時を廢といつをりそく
一間入るをらうぐひえれをさめぐと
なまきまづと人考まれをさもなまき躰子

ゆてもいはかくてもあらまきな河のさな
あり

第三

お町身を悔く嘆入乃
例子沈む事一

頃も目若さの時なれが長雅が多く
はくしども朝とく起るをあけ見せ
前をおきわらうら子さもたを
やらあら女のあらありげ子かけ来りそく

「女めいそあーおがお尋ねりて
ざいますし長雅さゆとやあふハけあさ
でびざんあけり「かほえ
おでびざりあを「女あさあけみ
たしう子ああげなまらつて下さるあせ
いひきててゆと事かかへいそぎ行
仕るかのみをも何ぶゆなくさー出せば
長雅も今あまこりあきて服をさるく

取く見ろ子お町さるみなれざり
ささおとだく答もなまこいぶさ
おまかへばきたるさまよてな子厚
出来たらん心あきく封あけつて
びつらりかへさるれくも何るやん
し「稲子をまけを「雅書言をのま
ふ市三アとんぶ事「雅何

八月よかろねがかいつくあ

おそちを出りてききまきでよその目も入相うりあひの
しよざうむせう法行しんぎサしんぎ常じょうとひびくこらひみ市しちましちごごくくま
 かつまきごみあくおとばをそろくとよ〜
みははぐぐちちああつつてて箱はこ子こををううけけ〜
 母ははののふふせせつつててああらら内
 いいづづももくくらら急いそててくくららなな〜
くび着きををくくつつ〜
 くく〜
うち内うち下した〜

いいづづもも身みををおおげげるるははののりり〜
おんきぎ大川おんきぎありありをを〜
どてがどてままのの柳やなぎのの枝えだ〜
いし〜
まき〜
はら〜
ま〜
ひま〜
 ぶぶ〜
 ぶぶ〜

とまこ〜さむ〜ささけはせ〜ものを
お見^こおぼくもござらふうと 守代^{ましろ}代^{しろ}や懐^{なつか}中
ものをめつてさうは〜トさ〜出^でれを
よ〜〜見^こまど 匠^{いざん}前^{まへ}長^{なが}雅^{みや}が 金子^{かねこ}入^{いれ}をこじ
ら〜一^{ひと}所^{ところ}のありおれよ〜急^{いそ}ぞお〜まの
勢^{せい}の屋^やのさあろよてあ〜らく〜守代^{ましろ}
子^こう〜ぐひあ〜け^{こゝろ}世^よの急^{いそ}んをゆめり

ゆ〜〜お〜け〜かひもな々色^{いろ}をたてまてし
もあ〜と〜あ〜ん^んを^を舟^{ふね}の^のお〜も^も咄^{はな}人^{びと}
おぼくのあつあつともあ〜り 実^{けみ}や女^{によ}のた〜まこ
と〜^{らち} 賢^{けん}の急^{いそ}むとあつあつでも急^{いそ}なか〜ちを
あせ〜く〜おの〜い〜いぢら〜ま
「雅^{みや}お〜アなんぶんまやうが死^しんぞをうり
らぐてんがけりわ〜か〜あつ〜か〜吐^へ〜き
まらせ〜ぐゆ〜〜幸^{さい}でけ春^{はる}あ〜ぶ 郭^{かく}中^{ちゆう}



子わこ肉一寸いつてあらうと時五年めく
立市グをいき下あきグ魚めちグあつこ
幸くくその已身際グ魚の上のをな
年の明のを待くわりのけ時でま
つてかく時で負をな女もあきだあ
うと肉あしよかん心をくそねぐ
女房のお後グどのやうにまはら
親仁さふいちんとあつまやらふと
あつて

け方でもきやうとまきつくとまねだ
ちうねいしユ夫人をめぐくくとを
宗中親仁さふいち令を二包うつを
さつてどもあつてもけ方よぶまは
子いさういづきちなりともかづく根
いつてつとさうとねだ母あやハめと
際もわざわぶん承知でさの已り田舎
たまをさふいちがあつかくとさつそ

おぼくをきかぬかゝりてよろおんでわ
とおねーのちのたまーを穿て人乃を
望しよめのちんをおぶさうとらえさけ
まててあつとあひしをけま合あつと
笑くを^{いろう}おをさきうねが^{えき}腹もくろめくぐ
を^{いづ}入るおめちもよくもなるくそそのち
一寸^{あひ}あつとま^いぶがあるから^ままてらさうと
度くいつてよここちあねどもそよら^いん

お雨^{とこ}もいよる^{とく}望もあーと^{うち}おまて^{あひ}ま
くちあまぶあやまうあのとま一寸とま
いつちあ^アう^ア格子^アもこくまのめをかまう
てまはつてちなまぶあんぶう一向^アこ
わくといよめんじやアわく^アある^ア程^アア
難^アもまじうりませんいづ^ア舞^アのめね
いよ望^アらうでボさうはせ^アア^アア
いよめのとる^アあ^ア子^アくろか^アい^アそ^アま

るををいし〜ゆ〜る 飛こらんや〜る
ま〜つ 目ト子カのりなま〜るはま〜るせ〜る
ま〜るあまがぞ行サちが〜る幸あ〜る
不便ムある身ミのありを〜るあ〜るも
なげきは〜るよ〜る幸あ〜る
せよ我レを志シ〜る家カ相シの一ヒわんク喜キあ〜る
あ〜る志シん切セなま〜るけ世ヨの縁縁をウる
〜る前サの世ヨ々夫ウ好フし〜るては所マが

長シ雅カも〜るせんし公キミのそこ子コあ〜る
信シ子シ早ハ芝シのあ〜る世ヨのあ〜るひとて雅カし
あ〜る長シ雅カが庭ニふてあ〜る女メあ〜る
かの方カ〜るあ〜るんで死シ〜る
あ〜る近キ所所視シ類レ子シてはあ〜る
うわ

弟四
長雅唯雄の乙鳥を見て忽ト公キミを
相一婚ウ禮レをを子コに事コト

初^{はつ}も長^{なが}雅^{みやび}をいひなげせし妻^{つま}乃^なかへ
縁^{えん}をよしをいともこほやうみらひせり
くもむ先^{さき}方^{かた}子^こても力^{ちから}あよむゆたむ年^{とし}
あらの婚^{いづまめ}なれむとてあまび^{むこ}智^ち母^{はは}をえん
でとらげせみらるとあり父^ふ母^{はは}も志^{こころ}うぐの
よしをうらうとえささむちどる子^こ細^{こま}あれを
妻^{つま}をもつゆづきよしを志^{こころ}ひて疑^{ねが}ひくらふ
まもりても力^{ちから}あよむべありなれどもおほくを

るをくふをかく妻^{つま}をもむよづきよしをぞ
まもあたるかくてある日^ひらうづらうしむきよする
乙^{つが}多^たをほくぐと見てあひくらをかくら
おほく土^{つち}をめつて衆^{しゆ}をほくりその中^{なかつ}に
雌^{めす}雄^{おとこ}あつて子^こがゆらるる衆^{しゆ}とまわくゆ
ごとく衆^{しゆ}け衆^{しゆ}をうけはげしれども雄^{おとこ}
あつて雌^{めす}もくもたゞ子をまらうる衆^{しゆ}あつ
されむかく衆^{しゆ}衆^{しゆ}を大^{おほ}知^ちみされどもゆづる

るまき人あり^{ていり}類子れおくりするもわん
こづらある^{いませう}又情子^{まよ}遊ひく^{がら}大甲を^には
はらぞあろうちる^{よが}父母のをく^{よか}をそむくのも
あつぎ^{せんぞ}先祖く^いく^いも不孝あ^{よか}くんと
くも^{こう}店ちををひる^いぐ^い父母子かく^いはげ
く^{よろこ}む^いま^いか^いぎりあ^いく^い又め^いや^い居^いを^いる
か^いく^いお^いら^いち^いさ^いやく^いよ^いま^いま^いま^いを^いむ^いく^いんと^い
み^{いち}市^いも^い迎^いま^いの^い始^いぐ^いん^い者^い子^いま^いね^いく^い人^いが^いく^い

法^い後^い店^いで^いく^いぐ^いひ^いま^いく^いな^いま^い女^いあり^いく^いも^い
ゆ^いあ^いよ^いび^いく^いを^いか^いめ^いら^いく^いか^いの^い方^いへ^いア^いま^いぬ^いんと^いて^い二三
日^いも^いか^いよ^いひ^いら^いり^い子^いさ^いら^いそ^いく^い縁^いも^いま^いき^いる^いあり^いなり
る^いも^いく^いら^いう^いして^い昔^い日^いよ^いも^いあり^い三^いく^い九^い度^いなり
さ^いら^いん^いた^いま^いも^い昔^い屋^いよ^いく^い教^いの^いひ^いく^いは^いて^いま^いて
よ^いの^いの^いび^いく^い結^いく^いく^いも^いも^いふ^いち^いア^いク^いま^いて
も^いや^い存^い入^いく^いま^いづ^いら^いし^いげ^いある^い茶^い碗^いを^いた^いた^い
い^いく^いら^いり^い長^い雅^いが^い居^いる^いく^いの^いあ^いひ^いて^いあ^いひ^い舟

お生のねほそあでさうりくまんとく
あそちひくまきさき 縁守ち物をもえいす
うつむらゝかろーが 夫人ひびいり
はま^カワいりちら^カいりていり
く^カま^カでさならうとぬぐあんどはすまき
在^カり^カのらうかうあめさんのお影を^カ見
時^カの^カら^カがさうのらうさうてあくん
なさいまー^カラヤ^カそんなまびらうりなさい

ともちういあちういあくんなさいまー^カ「雅
ア、アあちあ所^カら^カアわ^カり^カ五市ヲウト^カ影^カが
とけ^カト^カふさはあ^カあけ^カり^カあり^カて^カ足^カ形^カ
身^カニ^カだ^カん^カ目^カの^カ狂^カ言^カグ^カ様^カま^カあ^カり^カて^カあ^カざ^カり^カ
ませ^カ「雅^カさ^カで^カも^カん^カこの^カう^カ狐^カよ^カでも^カを^カく^カされ
て^カわ^カの^カう^カと^カげ^カせ^カわ^カく^カさ^カい^カら^カせ^カら^カわ^カ
た^カも^カと^カま^カら^カる^カ「^カ市^カや^カん^カら^カ市^カめ^カら^カも
今^カて^カま^カそ^カ他^カま^カの^カ教^カ向^カを^カま^カら^カう^カう^カあ^カま^カ

かの庄ご口ごとの糸あ子こ種もくのあく玉ご子あるく
 子こをかげんして一つ巻くめらがさやらりり
 死しふといふまま子ありまはるるも必ひぜらうら
 ささて且形かのからへ肉ひ分ぶんで官あとづきがら
 ぐがい子あつてもありませぬらう金をを
 えるとちま心かまり娘むらがつて田あ金ごくといふ
 仕しぢ子あをありやてまらうとえてあるふふ
 があん子たがまごとまきあまをちげこんで

わらけ出しなさるふをさらうといふ巡めぐり付て
 糸いと細このやうさをおもろしや何なにの事
 をあくあのもおはせや守ま代しろをくらう中ちゆう
 かごをあかりアてお目子こくけぎをあらんだ
 からままやらしらしても庄一ご家か中ちゆうのの
 糸いと通とふあらう筋すぢで身をあなげまらうら
 子こままらう田あ金ごであをあらうるよびの
 屋やちあらう娘むら中のあ入い利りがわけ二包ふ



長雅
福縁
を
おぼしめす



長雅
かき
不思議
出所
まろ
子

かくづう見^こらるゝもぬ^こ今^こ日の^こ所^こ言^こ
し^こあ^こう^こく^こ指^この^こさ^こし^こて^こち^こお^こざ^こり^こま^こん
あ^こく^こち^こは^こて^こま^ころ^こア^こと^こま^こて^こえ^こま^こど^こも
が^この^こ指^こて^こお^こざ^こり^こま^こん^こが^こお^こく^こひ^こあ^こら^こな
か^ころ^ころ^こで^こ他^こ者^こ見^こよ^こう^こほ^こど^こ胃^こを^こあ^こり
指^こく^こ指^こち^ころ^こよ^こり^こま^こま^こど^こあ^こう^こく^こり
指^こ子^こ指^ことも^こ佛^ことも^こり^こよ^こり^こを^こね^こね^こん^こ
の^こま^ころ^こは^こら^こひ^こう^こま^こい^ことも^こか^こく^こけ^こら^こ

ともあ^こど^こど^こふ^こち^こと^こも^こつ^こく^こさ^こね^こぬ^こく^こ「ま^こち
ま^こて^こる^こ命^こを^こお^この^こま^こだ^こも^こは^こな^こぐ^こる^こあ^こん^こと
あ^こり^こく^こら^こも^こひ^こと^こく^こ子^こお^こく^こら^この^こま^こを^こま^こい
な^こむ^こま^こぶ^この^こ神^こ也^こく^こ命^この^こ親^こ也^こく^こて^こお^こざ^こり
ま^こん^こ「五^こ市^この^こ人^こ居^こへ^こも^こ内^こ今^こを^こお^こあ^こけ^こは^こ持^こ公^この
涙^こも^こあ^こま^こど^こあ^こら^こう^こま^こあ^こー^こぐ^こあ^こぐ^こく^こち^こり
ま^こん^こく^こ「雅^こ字^こ九^こち^こん^こ中^こも^こい^こな^こね^こ「ま^こち^こお
か^こく^こけ^こら^こま^こよ^ここ^こざ^こり^こま^こん^こよ^こ「又^こや^これ^こく^こお

かてんてんてんてん

左可読書聖秀筆

年一



寂
あ
あ

